

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界文化遺産推薦について

1. 名称

「富岡製糸場と絹産業遺産群」 “Tomioka Silk Mill and Related Sites”

2. 所在地

群馬県富岡市、伊勢崎市、藤岡市、下仁田町

3. 暫定一覧表記載年

平成 19(2007)年

4. 概要

本資産は、世界経済が貿易を通じて一体化した 19 世紀後半から 20 世紀にかけて、高品質な生糸の大量生産の実現に貢献した技術交流と技術革新を示す集合体である。その結果、世界の絹産業の発展と絹消費の大衆化がもたらされた。

この技術革新は、製糸技術の革新と、原料となる良質な繭の増産を支えた養蚕技術の革新の双方が相まって成し遂げられた。本資産は、製糸とこれを支える養蚕の技術革新の過程を示す構成要素を併せ持ち、生糸を生産する過程全体を今日に伝える顕著な見本である。

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の顕著な普遍的価値

評価基準(ii) 高品質生糸の大量生産をめぐる日本と世界の相互交流

- ・ 明治政府による高品質生糸の大量生産のための近代西欧技術導入。
- ・ 日本国内での養蚕・製糸技術改良の促進。
- ・ 日本の高度な養蚕・製糸技術の海外移転による世界の絹産業の発展。

評価基準(iv) 世界の絹産業の発展に重要な役割を果たした技術革新の主要舞台

- ・ 器械製糸から自動繰糸機までの製糸技術の発達を伝える富岡製糸場。
- ・ 革新的な養蚕技術の開発とその普及を伝える建築物・工作物の代表例。

5. これまでの経緯

- 平成19年1月 ユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載
- 平成24年9月 世界遺産条約関係省庁連絡会議(主催:外務省)において、政府として推薦する旨決定
- 平成25年1月 ユネスコ世界遺産センターに推薦書を提出
- 平成25年9月 イコモスの専門家による現地調査
- 平成25年9月 イコモスから日本政府に対して追加情報の提出要請
- 平成25年10月 イコモスから提出要請のあった追加情報を提出
※比較研究、保全管理等について、追加的に情報を提供

6. 構成資産一覧

	構成資産名	種別	所在地
1	富岡製糸場(とみおかせいしじょう)	製糸	富岡市
2	田島弥平旧宅(たじまやへいきゅうたく)	養蚕	伊勢崎市
3	高山社跡(たかやましゃあと)	養蚕	藤岡市
4	荒船風穴(あらふねふうけつ)	養蚕	下仁田町

7. 位置図



8. 構成資産の概要

(1) 富岡製糸場 (史跡、重要文化財)



明治5年(1872)に明治政府が設立した官営の器械製糸場。和洋技術を混交して建てられた木骨レンガ造の繭倉庫や繰糸場などがほぼ完全にのこる。民営化後も一貫して製糸を行い、製糸技術開発の最先端として国内養蚕・製糸業を世界一の水準に牽引した。

(2) 田島弥平旧宅 (史跡)



通風を重視した蚕の飼育法「清涼育」を大成した田島弥平が、文久3年(1863)に建てた主屋兼蚕室。瓦葺き総二階建てで換気のための越し屋根を備えた構造は、近代養蚕農家の原型になった。

(3) 高山社跡 (史跡)



高山長五郎は、通風と温度管理を調和させた「清温育」という蚕の飼育法を確立した。この地に設立された養蚕教育機関高山社は、その技術を全国及び海外に広め、「清温育」は日本の標準養蚕法になった。

(4) 荒船風穴 (史跡)



岩の隙間から吹き出す冷風を利用した国内最大規模の蚕種(蚕の卵)の貯蔵施設。冷蔵技術を活かし、当時年1回だった養蚕を複数回可能にし、繭の増産に貢献した。